

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0110317328), 法人名 (医療法人社団 鈴木内科医院), 事業所名 (グループホームきよた), 所在地 (札幌市清田区清田4条2丁目10-25), 自己評価作成日 (令和元年9月22日), 評価結果市町村受理日 (令和元年10月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1) 当ホームは、法人である鈴木内科医院と併設しており、24時間の医療連携体制があり、必要に応じて訪問看護を活用することで安心のできる生活、ターミナルケアを提供することを実践しています。
2) また、法人内に訪問リハビリがあり、専門職により、すぐに相談、アドバイスをうけられる環境にあります。
3) ホーム自体は家庭的な環境で、入居者様にとって落ち着ける環境にあり、家事などを一緒に行なっていただくことでやが、自立支援、機能維持、認知予防につながっていると考えています。
4) 職員にとって、多くの研修に参加できる場を設けており、職員がやりがいをもち、ステップアップできる職場環境を大切にしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0110317328-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年9月11日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの地域環境や介護設備等の機能性 ; 交通至便で閑静な住宅街にあって、1ユニットのコンパクトな介護機能の設備と共に、医療法人経営の医療と介護の職員相互の専門的・有機的な関係に支えられたホーム。
2) 職員の介護態度や姿勢 ; 職員は個々の職位の専門性の向上に努めるとともに、法人理念に応じた、優しく丁寧な利用者本位の支援に専念している。
3) 家族等の好感度 ; 職員が利用者や家族共に、個々に丁寧で真摯な介護・相談・報告への対応に対して、家族は高い好感を示している。
4) 運営推進会議の開催状況 ; 会議は定例に開催。運営関連企画と実施結果等の資料を提示・説明して、家族、地域組織関係者、包括支援センターの意見等を運営に反映している。
5) 地域の機関や組織との連携 ; 地域住民組織の一員として連携を深め、老人会・子育てサロンに定例の参加が可能な地域の支援と連携を得ており、利用者本位な運営に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎朝、唱和しており、職員間で共有している。	医療法人の理念はLove and Care;「愛のある 1)医療と介護、2)経営、3)運営」に基づき、利用者の尊厳と暮らし、認知症に伴う障害の緩和、家族支援を掲出して、各専門職位に基づく連携ある介護の実践に専念している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	老人会定例会、子育て支援の会に毎月出席し、毎年町内会の展示会への出品などで地域とのつながりを深めている。	地域で定例に開催される老人会や子育てサロンに温かく迎えられて、利用者が参加できるなど地域との連携関係が良い。町内会の一員としての協力関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会定例会へ出席し、一緒に食事、カラオケに参加する事、管理者会で年に一度認知症サポーター養成講座を各地域で行うことで認知症の方々への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町内会会長、老人会会長にも出席頂き、事業所の運営状況、支援方法について報告している。時に意見を求め、サービス向上につなげている。	会議は定例に開催して、地域組織・機関や家族の参加を得て、運営状況を資料とともに説明して理解に努め、参加者の意見等を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、制度上等の疑問があれば、すみやかに問い合わせ、事業所の実情にあった制度、申請などアドバイスももらっている。	定例の運営状況報告とともに、経営や運営に関わる行政上の変更などについて協議して、さらなる運営の改善に資する協議を進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、言葉による抑制も含め、身体拘束について勉強会を開くなど、ケアに取り組んでいる。	拘束委員会を定例に開催する等、理念に沿った利用者個々への温かく、きめ細かな尊厳ある対応について、事例を基に、職員相互が共有して適切な介護支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の外部講習へ職員が参加し、ホーム会議で勉強会を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてホーム内で勉強会を行なっている。外部の研修にも参加し、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族様に理解と納得が得られるよう細部にわたって説明し、努めている。改定等は、運営推進会議で説明し、お便りの発送を行ない、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、面会して頂けるようお願いし、その際に生活の記録を読んでもらったり、様子をお伝えし、意見や要望をお聞きしている。変化がある際は連絡し、現状を報告している。	家族の訪問頻度も高く、家族の来訪時には意見交換、相談、報告等に留意して対応し、利用者にとった介護となるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議、全体会議、経営会議、ホーム会議で代表者に意見、提案出来る機会を設けている。また、定期的に運営側と個別に面談を行っている。	法人全体の経営会議、全体会議・GH会議等代表者の意向を受け止め、ホームの実情の課題を報告して、職員の意向を反映するとともに、職員相互の業務内容を確認して、チーム力を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、個別面談、管理者の意見、資格の有無などから、評価し、人事、給与を決めている。各部署が独立に運営できるよう、経営の勉強をし、毎月それに向けての目標を掲げ、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や法人内研修に参加することで、学ぶ機会を設けている。また、ホーム内では毎月勉強会を開き、各自がテーマを決め、発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会主催の交流会や研修会に参加したり、外部の研修会に参加することで、交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の様子、ご家族の意見、ホームでの様子からアセスメントを十分に行い、入居者様が安心して意見が言いやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを大切にし、話しやすい環境作りと信頼関係が作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族に面接を行いながら、関係機関からの情報を取り入れ、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のレベルに合わせた支援を行い、家事の参加など、生活の場を共に過ごす支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に行事に参加して頂いたり、外出、外泊する機会を持てるよう支援している。また、ご家族と毎日電話していただくなど、絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月家族様のお見舞いに行くよう支援したり、面会に来られた際には、居室で過ごして頂けるよう支援している。	家族の来訪時を大切にして、利用者とのなじみある支援に努めるほか、入所以来の地域での老人会や子育てサロンでの楽しい出合いを支援すよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーション、お茶の時間に入居者様同士が楽しく会話したり、関りを持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。サービス終了後も気軽に相談などして頂けるよう声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時には、必ず本人の意向を聞いている。困難時には、本人本位に検討している。	入所以来のアセスメントを基礎に、入所経験に応じた個々の生活スタイルなどに表わされる意向や希望を把握し、なお、家族の経験での協力を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き、センター方式を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の記録、申し送り等で把握している。月に一度のホーム会議で周知し、情報交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向は家族様にも聞いている。サービス担当者会議を開催し、本人を含め話し合っている。ご家族様にも参加して頂ける様、呼びかけている。	定例職員会議やカンファレンス報告等に基づき、各専門職位に伝えて、定例あるいは即時対応のための介護計画の作成に努めて、家族に理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録している。職員には記録の重要性を会議で話している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の活動に参加し、ニーズは可能な限り対応する方向で考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清田老人会、子育てサロン、展示会の出品などに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で支援している。緊急時にかかりつけ医に連絡し、必要時は24時間体制で訪問看護を活用している。	入所者の多くは医療での関りで入所しており、医療・リハビリ・看護等の専門職位の支援もあり、必要に応じた専門機関の受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回法人内の看護師が医療連携にきている。必要時は医師の指示のもと訪問看護を利用し、連携を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を提供し、退院時は入院先の医療機関、併設医院の医師、ご家族と話し合い、グループホームでの対応が可能であれば、早期退院支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の医師や看護師と連携をとり、職員の役割を明確にし取り組んでいる。ご家族には入居の際に指針を説明、理解していただき、医療と連携しながら、都度意向を確認している。法人内の看護師が行う看取りについての研修にも参加している。	重度化・終末期への対応指針を共有している。利用者に変化が生じたときには、家族とともに経営母体の医療法人ぐるみで対応を協議し、適切な支援を得ている。対応指針は医療・看護・介護の要件を示唆して家族の理解を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム会議で勉強会を行ない、迅速に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練を年に2回行っている。そのうち1回は夜間を想定して行っている。地域との緊急時の対応の意見交換も行なっている。	防災訓練等は関係機関の協力を得て年2回の訓練を実施し、運営推進会議での地元関係組織の理解と支援関係を協議している。また備蓄等の配慮や設備・機器の点検に留意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人にあつた適した声掛けで対応している。	利用者への接遇には法人理念や業務指針を旨に、個々の心身の状況や生活スタイルなどに留意して、人格やその尊厳を損なうことない介護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の訴えや求めていることを聞き、極力希望に沿うよう支援している。自己決定の難しい入居者様には選択肢を与え、希望を持てるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なにが出来るか、やりたいか希望を聞き個別の対応をしている。入居者様が楽しんで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、気候に合わせて洋服を選んで合わせている。外出時や行事の時は化粧をしたり、服装にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には下ごしらえ、味見、盛付、食事後は茶碗洗い、茶碗拭きをしていただき、スタッフと共に行なっている。	個々の嗜好や季節に応じた楽しみの食事等に留意するとともに、利用者の力を活かした下ごしらえや、食事前後の設えなどを共にして、その支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に適した食事の形状や量で提供している。食事量、水分量を記録し職員間で把握している。飲み物を好まれない方や誤嚥のリスクが高い方はゼリーを提供し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる部分は入居者様にして頂き、不十分なところは介助を行なっている。必要に応じて訪問歯科を利用し、定期的に指導をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から入居者様にあった排泄パターンをもとに対応している。必要に応じ、センター方式を活用し、排泄パターンを把握している。	排泄の自立支援を基本に、個々の心身の状態に応じたパターンを職員は共有して支援に努めている。また家族と用具の変更等を相談して、適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い、身体を動かす機会を設けている。朝食に牛乳を提供している。便秘、下痢が続く方には医師に相談し、下剤、整腸剤を使用し調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴を行なっている。入居者様の状態に合わせて、シャワー浴で対応したり、入浴時間、温度などを調整している。	入浴は午前と午後、個々の選択に応じた意向に合わせて、シャワー浴対応など、時間・温度等に留意した楽しい入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も入所者様に合わせて、休息していただく時間を設けている。各居室の温度など、環境面にも気を配って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療後、薬の変更があれば記録に記載している。申し送り表でも全スタッフ周知するよう申し送りをしている。薬の説明書はすぐに確認出来るよう個々のファイルに綴っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好みを把握し、一人一人にあったレクリエーション、個別外出を行ない、役割、楽しみのある生活を送っていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望にそって、個別外出や散歩に出掛けられるよう支援している。希望を実現できるようご家族と協力しながら、外出を行なっている。	利用者個々の希望や家族の協力を得た外出などの支援に努めるとともに、地域で行われる定例老人会や子育てサロンの温かな理解を得た参加の機会を活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームの金庫で管理している。入居者様の希望に応じて買い物や食事を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をしていただくよう支援している。手紙が届いた際には、返信できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日気持ちよく過ごしていただけるよう、掃除や換気をしたり、温度や湿度を管理している。また、季節にあった飾りを壁に飾ったり、季節の歌の歌詞を貼ったりしている。	1階の居間は彩り鮮やかなタッチパネル模様の壁飾りや季節感の装いなど、寛げる居間の雰囲気を整えている。また、温度・湿度や採光の管理も留意された環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや食卓テーブルの席でそれぞれが好きな場所で好きなように過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が混乱してしまうもの、危険があるものは本人、ご家族と相談し回収している。なじみのあるもの、本人が作った作品、ご家族との写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は本人や家族との馴染みの思い出や飾りつけなど、個々の心身の状況に応じた備品・備具の配置などに留意して、居心地良い居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月のホーム会議にてスタッフ同士で意見交換し、「できること」などを把握している。居室やトイレがわかるよう貼り紙をし、自立した生活が送れるよう工夫している。		